

姫路市在住の剪画家小坂通泰さん(77)の個展「白鷺の城ふたたび」が1日、同市総社本町の播磨国総社西御門で始まった。世界文化遺産・国宝姫路城の「平成の大修理」完了を記念した

総社
播磨国

企画で、5日からは近くのイーグレひめじで同時開催。城や播磨国風土記などを題材に、白と黒のコントラストが織り成す剪画の美を通じ、播磨路の魅力伝える。
(仲井雅史)

剪画で播磨路の魅力

城や播磨風土記テーマ

小坂さんは1967年、エッジ(縁)が魅力と小坂さん。姫路市内にデザイン事務所を開設。観光ポスターなどを手掛けながら、姫路城など播磨を題材にして創作に取り組んできた。

剪画は黒い紙をカッターナイフで切り抜き、下から白い紙を当ててモノクロ絵画のように表現する。彩色することもある。「やり直しがきかない緊張感と一気に漆喰と黒い瓦が生み出す仕上げる勢い。きれいな一級品の美術品と評す。『白

と黒を基調とする剪画とびつたり合う。これや、というものがあつた」幼いころから城に親しみ、今も足しげく取材に通う。「いつも発見、感動、謎がある。イメージがどんどんわき、壁にぶつかり、越えようとする。いい画題に出合えて幸せ」総社会場は15日まで。イーグレ会場は5～10日、6日午前10時から県立大特任教授の中元孝迪さんが「よみがえった姫路城その美しさの秘密」と題して記念講演する。

いずれも無料。小坂さんの近作を収めた画集も販売中。3240円。小坂さん ☎079・281・8629

姫路城の大修理完了記念 小坂さんが個展



出版した画集を手にする小坂通泰さん＝播磨国総社